

宇都宮市の緑の現状（概要）

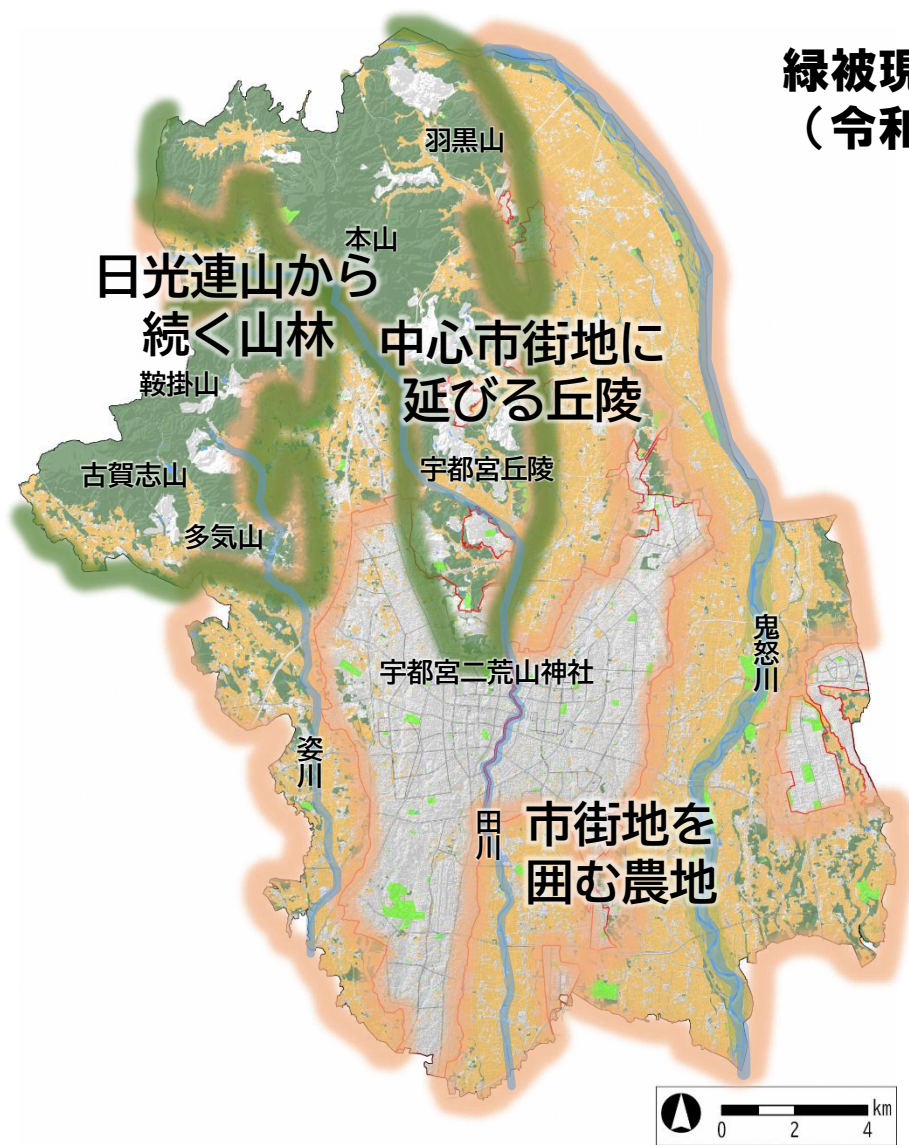
目次

| | |
|-------------------|----|
| 1. 宇都宮市の緑の現状 | 02 |
| 2. 緑をとりまく環境の変化 | 10 |
| 3. 宇都宮市のまちづくりの方向性 | 14 |
| 4. 市民意識 | 21 |
| 5. 現行計画の成果 | 25 |

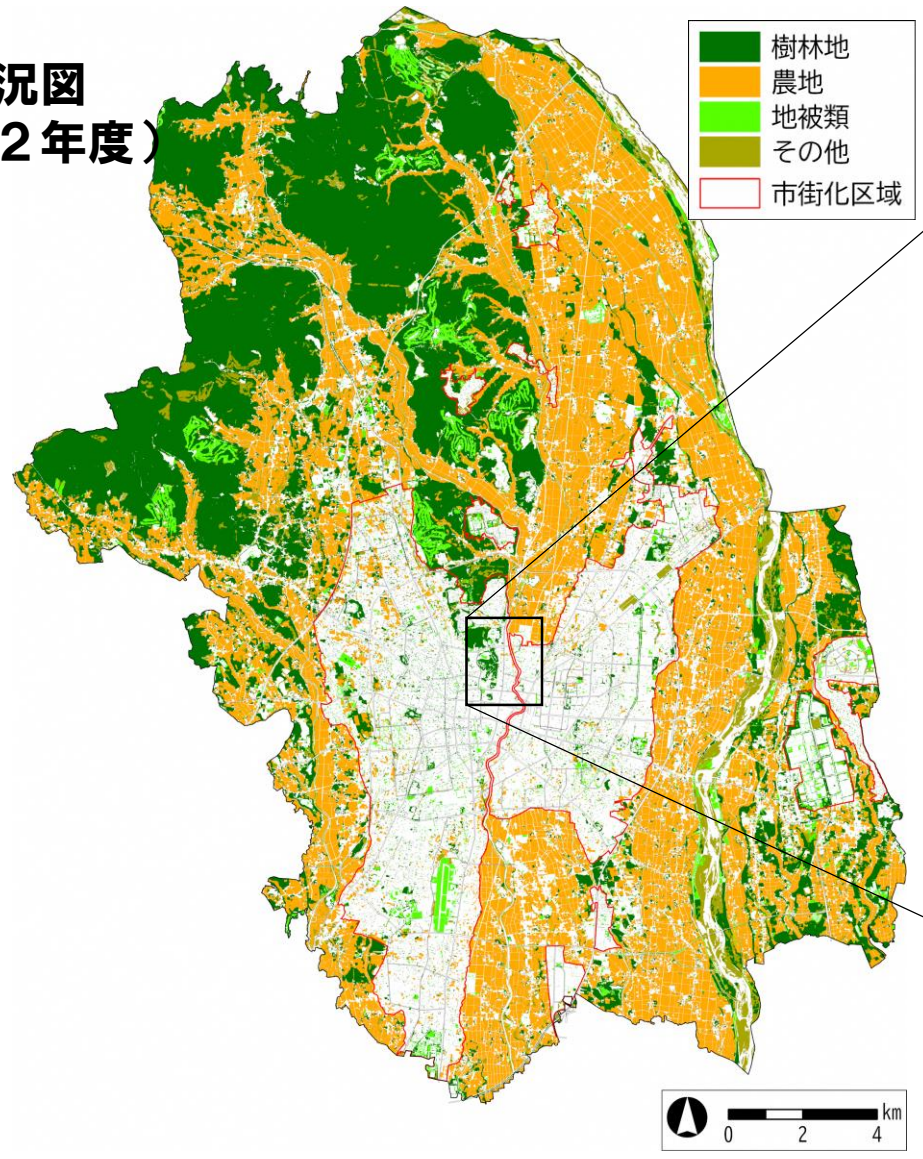
1. 宇都宮市の緑の現状

緑の構造

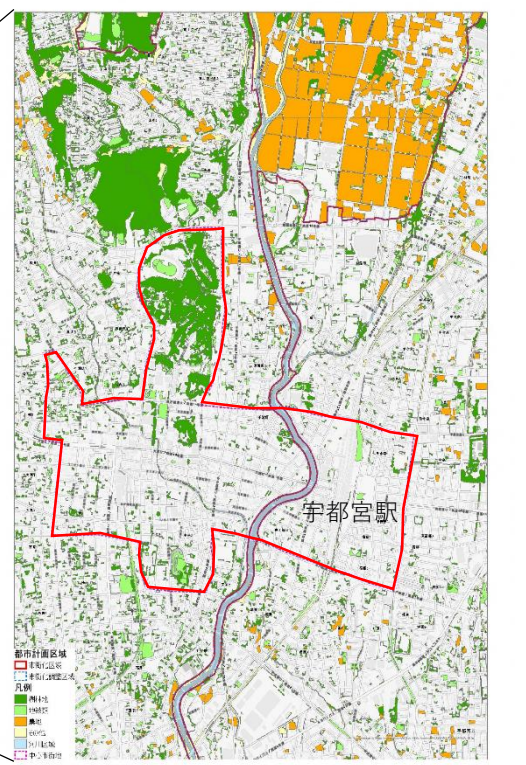
・宇都宮市の緑は、山林と、山林から中心市街地へと楔を打ち込むように延びる丘陵の樹林地，市街地を囲むように広がる農地によって大きな骨格が構成されている。令和2年現在の緑被率は，市域全域で67.0%，中心市街地で15.2%となっている。



緑被現況図
 (令和2年度)



中心市街地の緑被

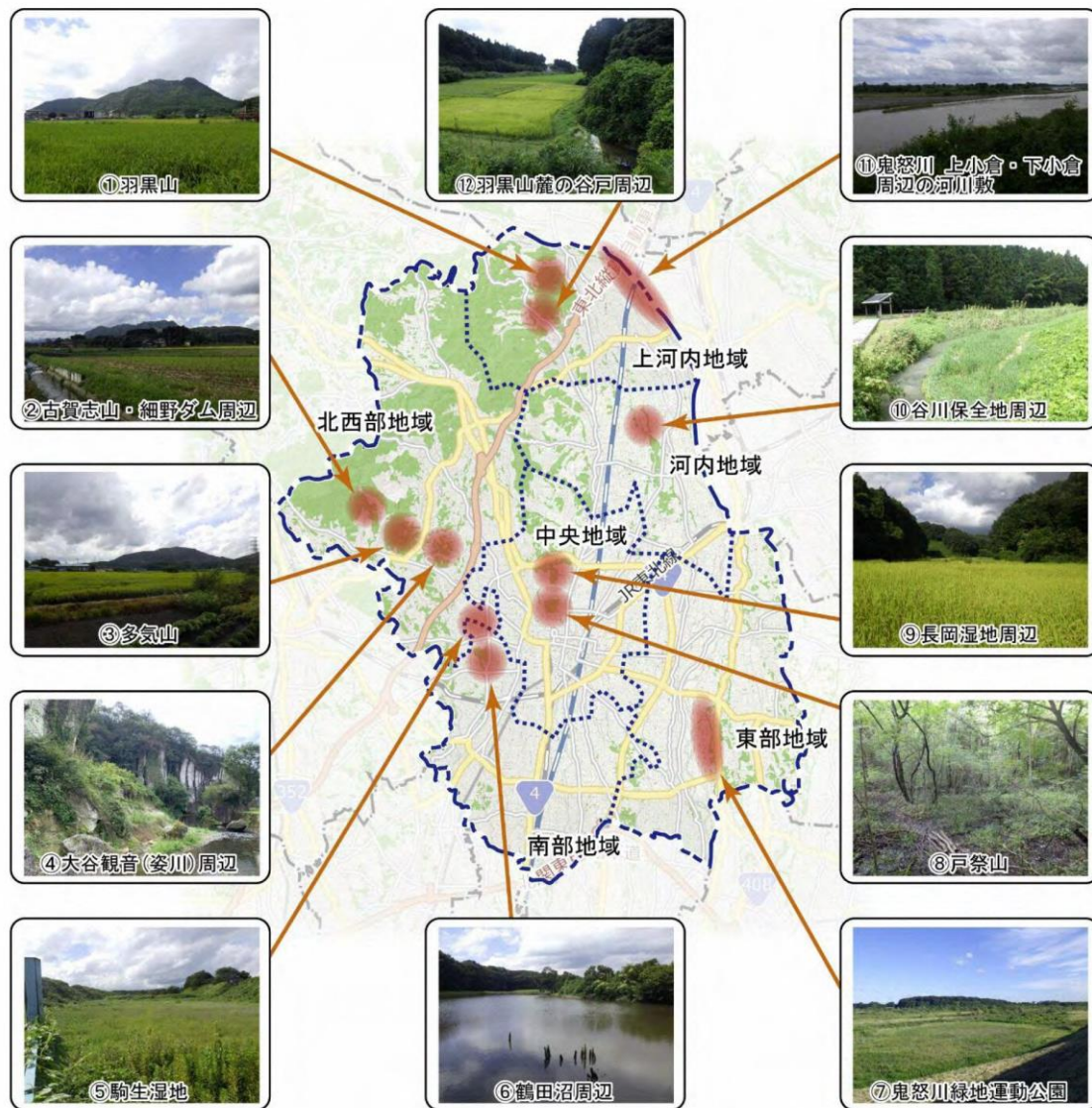


— : 都心部ランドデザインにおける中心市街地の区域 (320ha)

緑の構造

- 平成21～22年自然環境基礎調査では、540科3,363種の動植物を確認。農業を営む二次的自然環境，大規模河川の礫河原環境，奥山的な原生森林環境など多様な自然環境に，多様な生物が生息している。

重要な自然環境

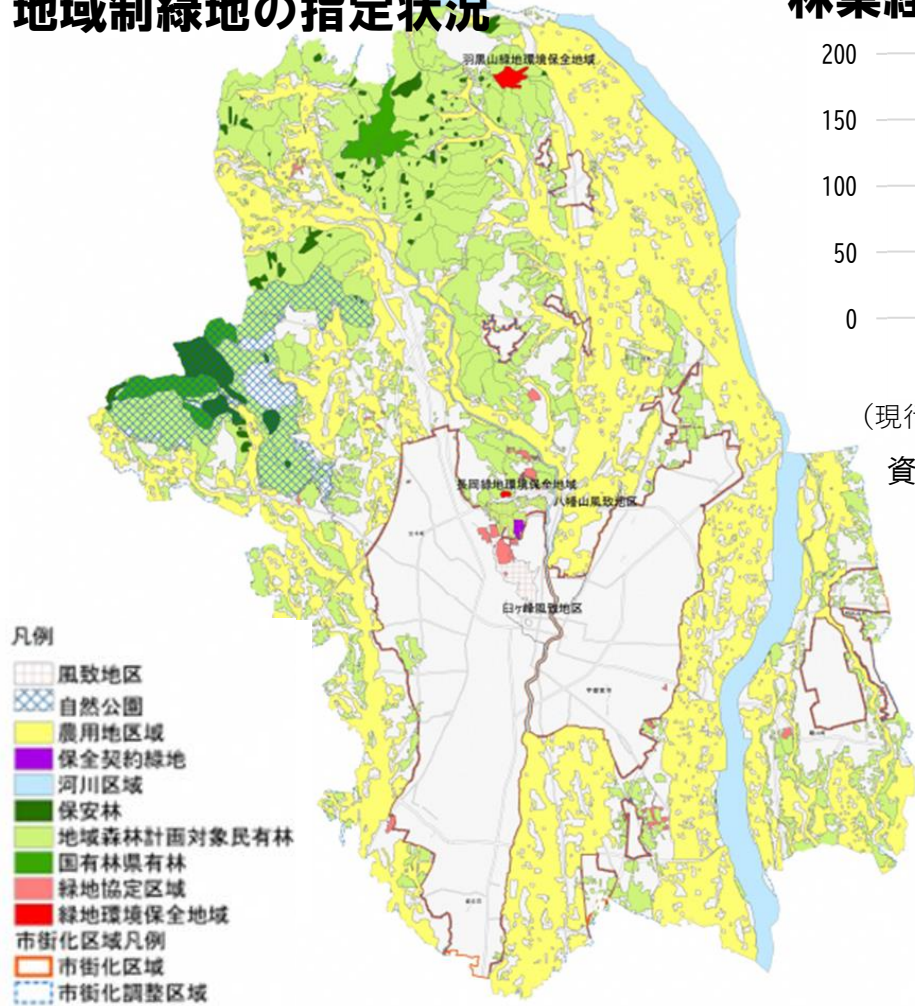


出典：うつのみや生きものつながり
プラン後期プラン (R3.3)

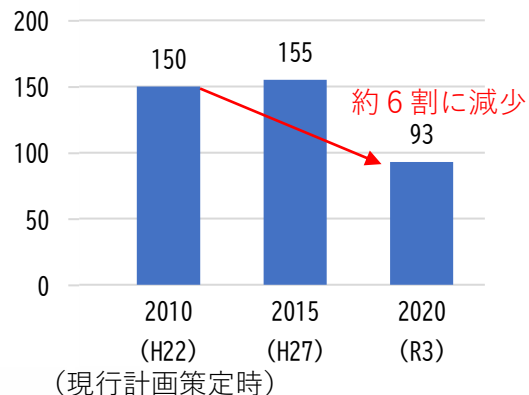
緑の種別の状況：樹林地等

- 自然公園や保安林，風致地区等の地域性緑地の指定により，山林，樹林地が保全されている一方，林業経営体は平成22年（現行計画策定時）から約6割に減少。
- 市民団体，企業との連携による保全活動，長岡最終処分場埋立地跡地での市民参加の植樹など，緑地の保全活用の取組が行われている。

地域制緑地の指定状況



林業経営体の推移



資料：農林水産省「農林業センサス」より

市民団体，企業との連携による保全活動



鶴田沼緑地での下刈り



長岡樹林地での環境学習
写真：グリーントラストうつのみやパンフレット

長岡最終処分場埋立地跡地での植樹

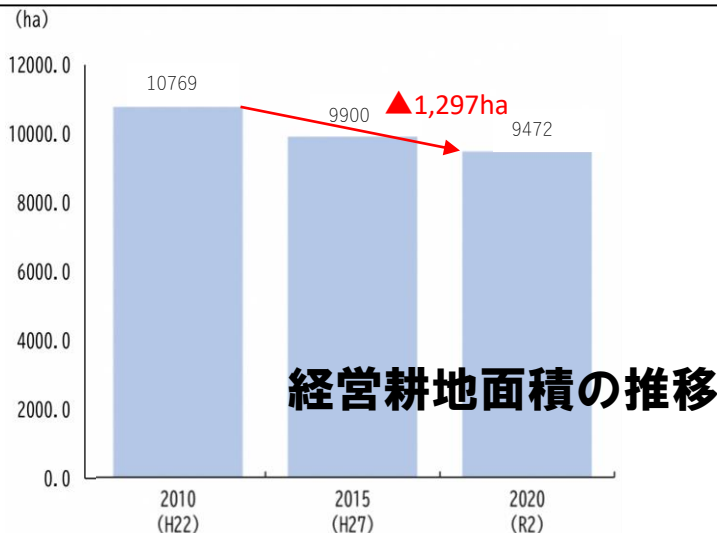


戸祭山緑地での企業連携による保全活動
(生き物つながり活性化事業)

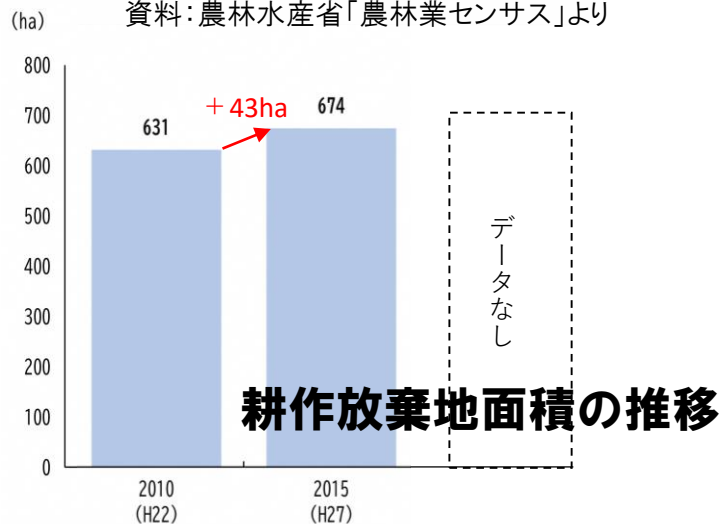
緑の種別の状況：農地

- ・市街地周辺の河川沿いに農地が広がっており、低地は主に水田として、台地は主に畑地や果樹園として利用されている。
- ・平成22年(現計画策定時)から経営耕地面積が1,297ha減少、耕作放棄地は43ha増加している。
- ・農林公園ろまんちっく村では、農とのふれあい機会などもみられる。

農地の分布状況



資料：農林水産省「農林業センサス」より



資料：農林水産省「農林業センサス」より



農林公園ろまんちっく村での農業体験の様子



小学生の農業体験（稲作）

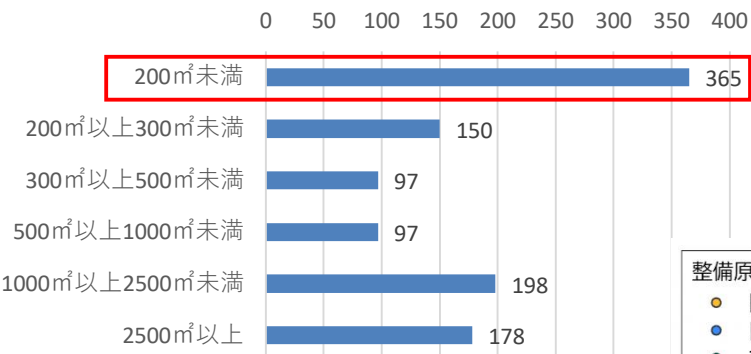
緑の種別の状況：公園

- 令和4年現在、都市公園は1,085箇所、587.56ha(市民一人当たり11.42㎡)
- 身近な公園の配置については、地域によって偏りが生じている。
- 開発行為に伴う小規模公園の増加、開設後30～40年経過した施設の老朽化等により、公園維持管理費は増加傾向にある。

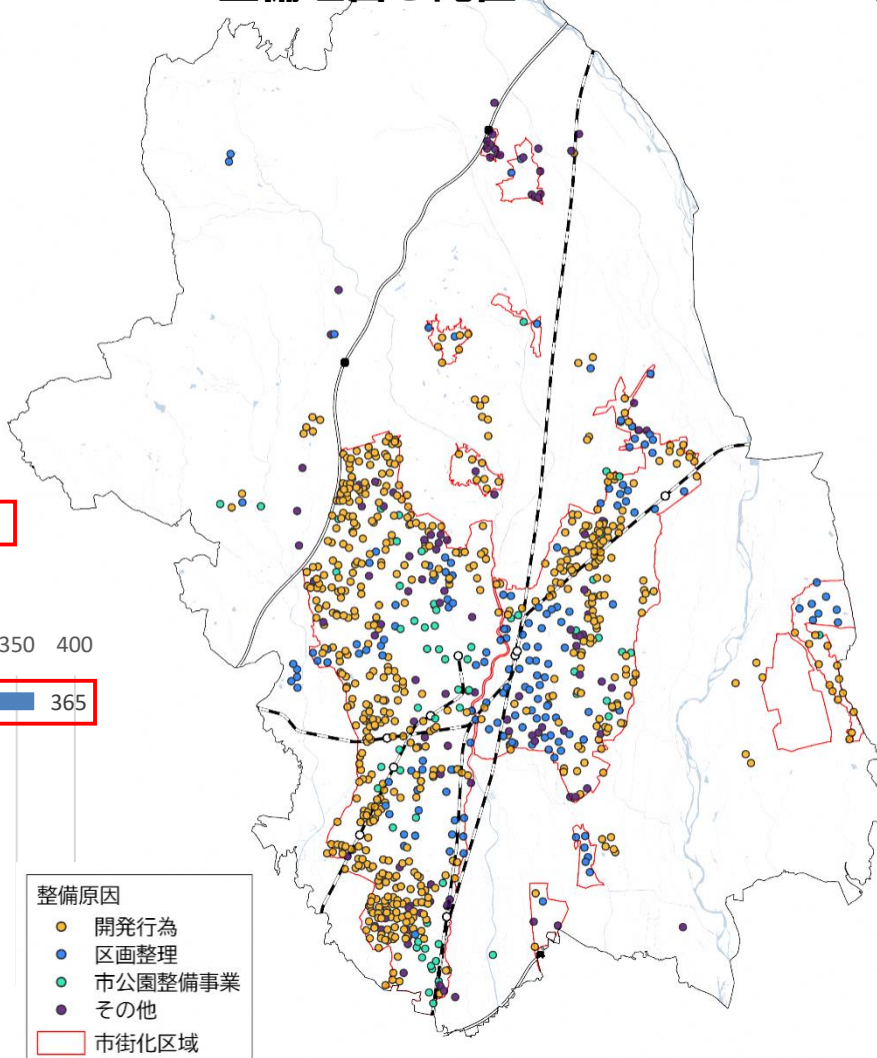
公園面積・箇所数 (R4.4.1)

| | 箇所数 | 面積(ha) |
|----------|--------------|---------------|
| 街区公園 | 954 | 83.35 |
| 近隣公園 | 26 | 47.42 |
| 地区公園 | 8 | 32.99 |
| 総合公園 | 6 | 105.21 |
| 運動公園 | 8 | 187.66 |
| 風致公園 | 1 | 16.60 |
| 墓園 | 2 | 12.75 |
| 緩衝緑地 | 4 | 29.99 |
| 都市緑地 | 65 | 69.47 |
| 緑道 | 9 | 1.58 |
| 広場公園 | 2 | 0.52 |
| 計 | 1,085 | 587.56 |

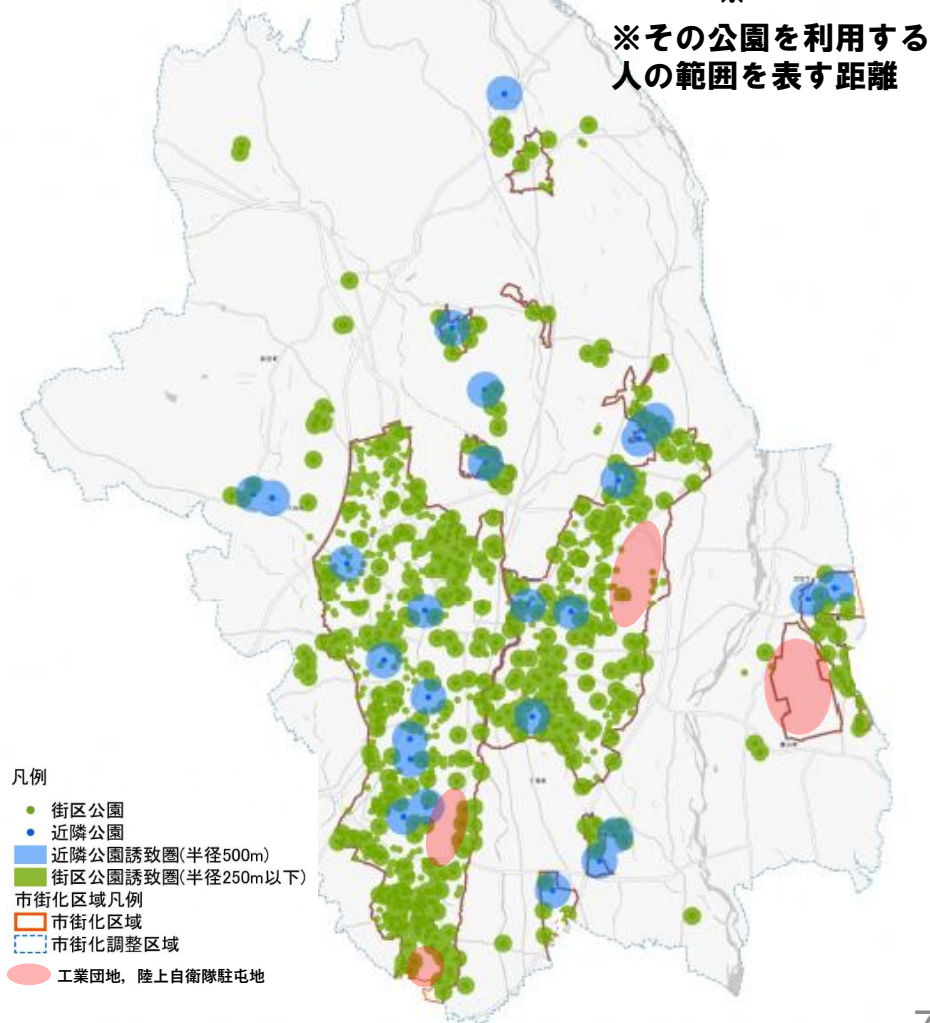
面積規模別公園箇所数



整備理由と配置



身近な公園（街区・近隣公園）の誘致圏※



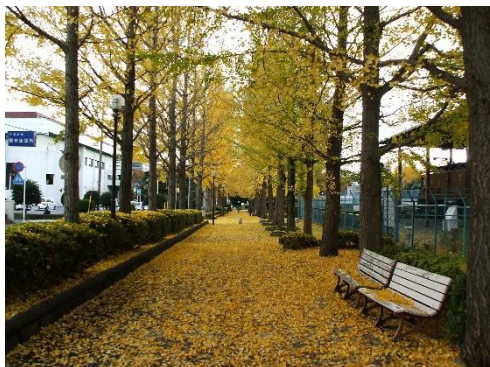
緑の種別の状況：都市緑化

- ・ 県庁前通りや駅東公園等では街路樹が個性的な景観を形成している。
- ・ 都市部の緑については、市民からは落ち葉や根上りが問題としてあがっている。
- ・ 花苗の植栽や“緑のカーテン”の設置による「公共施設の緑化」、都市緑化基金制度を活用した住宅新築記念樹の贈呈等により「民有地の緑化」への支援を行っている。

【街路樹】

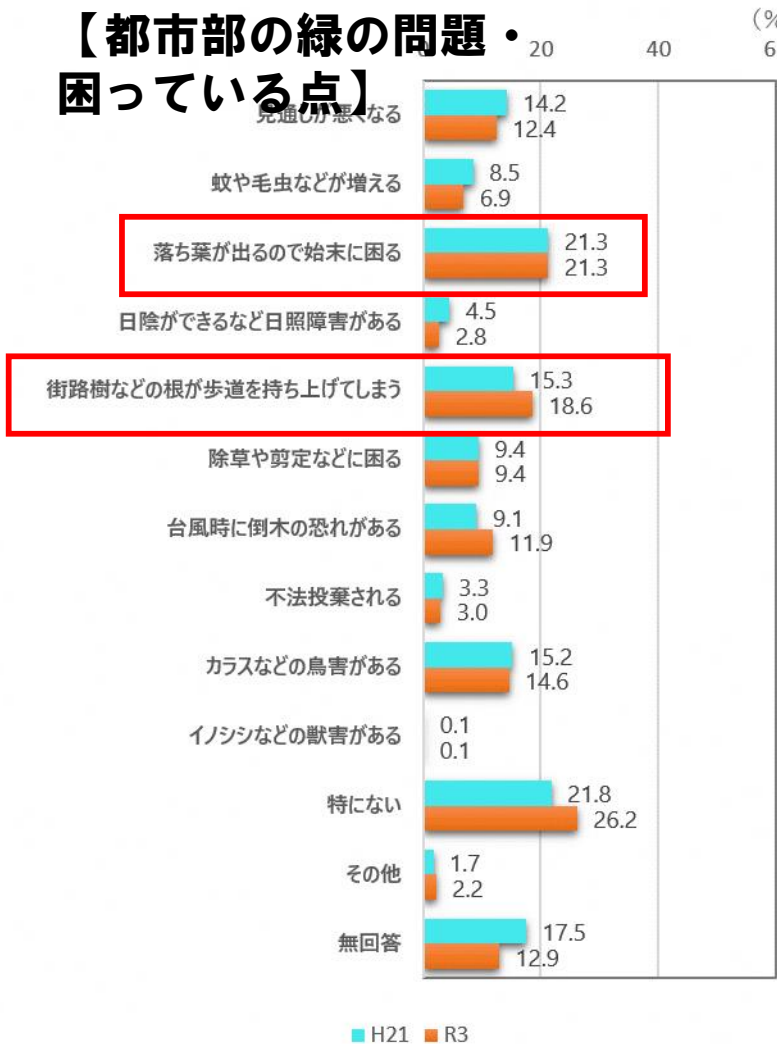


県庁前のトチノキ



駅東公園のイチヨウ

【都市部の緑の問題・困っている点】



【公共施設の緑化】

公共事業おもてなし緑化事業・・・
地区市民センター、保育園等の各公共施設に対し、花苗及びプランター等の資材を配布し、各施設で設置

公共施設おもてなし緑化事業の経過・実績

| | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
|-------|-----|-----|----|----|----|
| 実施施設数 | 83 | 81 | 75 | 74 | 72 |

【民有地の緑化】

各種記念樹贈呈事業・・・
新しく市民になった新生児、住宅を新築・購入した市民に対し、記念樹を贈呈

住宅新築記念樹・出生記念樹贈呈事業の経過・実績

| | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 住宅新築記念樹 | 843 | 791 | 898 | 873 | 792 |
| 出生記念樹 | 1,184 | 1,057 | 1,196 | 1,200 | 1,153 |

緑の種別の状況：市民・企業等の活動

市街地における取組

- 市民、事業者、行政が連携し、ハンギングバスケットやプランターによる中心市街地の緑化
- 高校生が育てた花苗を活用して、作成したプランターの設置
- 公共施設の花壇を利用した小学生対象の緑化講習会の実施



シンボルロードのハンギングバスケット



高校生によるプランターの設置

河川沿いにおける取組

- 河川愛護会等と連携した釜川や田川等の植栽、維持管理等
- 釜川プロムナード沿いに定期的な花植え及び管理、清掃活動を実施



田川沿いの桜



釜川プロムナード

工場周辺における取組

- 工場立地法に基づき特定工場に対して5～20%の緑を敷地内に確保
- あわせて、市条例に基づき、視覚的な緑量を確保



工場敷地内周辺部への立木の設置状況

2. 緑をとりまく環境の変化

緑をとりまく環境の変化

◆都市緑地法、都市公園法の改正（平成29年）

人口減少社会，公園の老朽化，財政制約等を背景に，**民間活力を最大限生かして，緑・オープンスペースの整備・保全を効果的に推進**し，緑豊かで魅力的なまちづくりを実現するため，都市緑地法等を改正

< 主な法改正の概要 >

| 緑地・広場の創出 | 都市公園の再生・活性化 |
|---|---|
| 【都市緑地法】 <ul style="list-style-type: none">・民間による市民緑地の整備を促す制度の創設・緑の担い手として民間主体を指定する制度の拡充<ul style="list-style-type: none">・「緑の基本計画」の記載事項の拡充 ⇒都市公園の管理の方針，生産緑地地区内の緑地の保全など | 【都市公園法】 <ul style="list-style-type: none">・公募設置管理制度（P-PFI）の創設・公園内のPFI事業に係る設置管理許可期間の延伸・都市公園で保育所等の設置を可能に・公園の活性化に関する協議会の設置 |

◆生物多様性保全への対応

- ・「生物多様性国家戦略2012-2020」の中で，**緑の基本計画に期待される生物多様性の保全の役割がより明確化**
- ・緑の基本計画内に生物多様性確保の観点をどのように取り入れれば良いかを解説した「生物多様性に配慮した緑の基本計画策定の手引き」を策定（平成30年4月）

緑をとりまく環境の変化

グリーンインフラ（GI）とは

社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組

【GIを構成する自然環境】

森林・樹林
農地
河川・水辺
緑地
植栽

【多様な機能】

- 雨水の貯留・浸透による防災・減災
- 水質浄化
- 植物の蒸発散機能を通じた気温上昇の抑制
- 生物の生息・育成の場の提供
- 良好な景観形成
- 健康、レクリエーション等提供

課題解決に活用

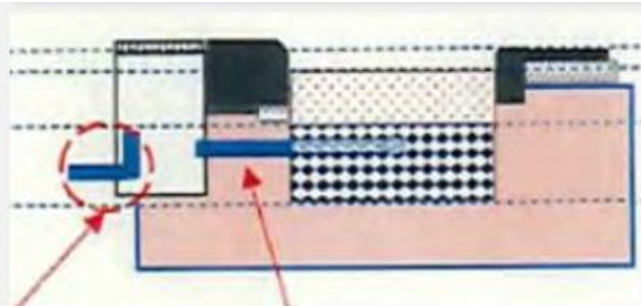
【GIの活用が想定される場面】

- ・ 気候変動への対応
- ・ 投資や人材を呼び込む都市空間の形成
- ・ 持続可能な国土利用・管理
- ・ 人口減少等に伴う低未利用地の利活用
- ・ 都市空間の快適な利活用
- ・ 生態系ネットワークの形成
- ・ 豊かな生活空間の形成

■事例：防災 ガーデンシティ横浜（横浜市）⇒気候変動への対応



2020年8月



レインガーデンでも処理できない水位に達すると下水に排水。 スロープからの雨水をレインガーデンに流入させる構造にして、冠水を防止。

■事例：都市の再生・更新に合わせたグリーンインフラの形成⇒都市空間の快適な利活用

都市のコンパクト化と連携した民間による緑地創出（西条市）



西条都市機能・居住誘導区域

「つむぐ広場」イメージ：西条市提供

・ 立地適正化計画の居住誘導区域内での民間開発の際に創出される緑地を、認定市民緑地として民間が管理予定

公園・緑道、水辺空間等を一体的に整備（岡崎市）



回遊動線

龍田公園イメージ

・ まちの回遊動線の拠点の一つとして、市民が日常的にくつろげる芝生広場や緑道、プロムナード等を整備（整備中）

宇都宮市の現在の取組においても

■事例：外来種（アメリカザリガニ）駆除を継続し、絶滅寸前だったトウキョウサンショウウオを保全 ⇒生態系ネットワークの保全

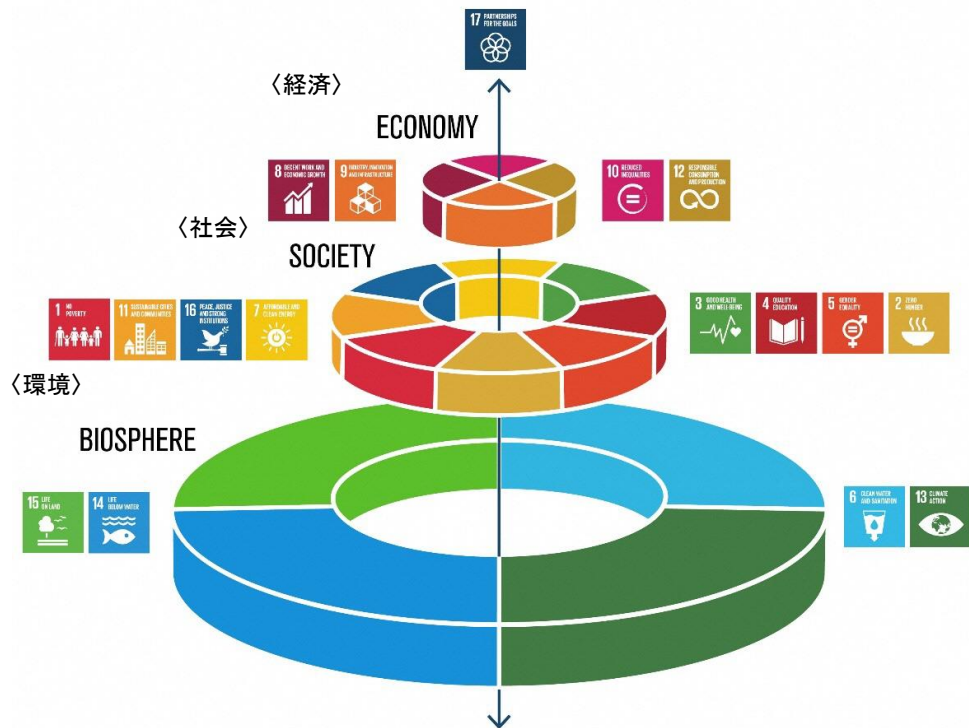


緑をとりまく環境の変化

- 近年、国際動向、法改正、緑に関する考え方など様々な変化が生じ、緑の役割が拡大している。
- 公民連携、緑の多様な機能の発揮によって、持続的な魅力あるまちづくりを推進することが、緑に求められるようになってきている。

◆ 「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けた取組：経済・社会・環境の三側面の持続性

SDGsは、2015年に国連で採択された、国際社会が共有する2030年までの「持続可能な開発目標」であり、大きく17の目標から構成されている。



SDGs ウエディングケーキモデル

図：ストックホルム・レジリエンス・センターの図に加筆

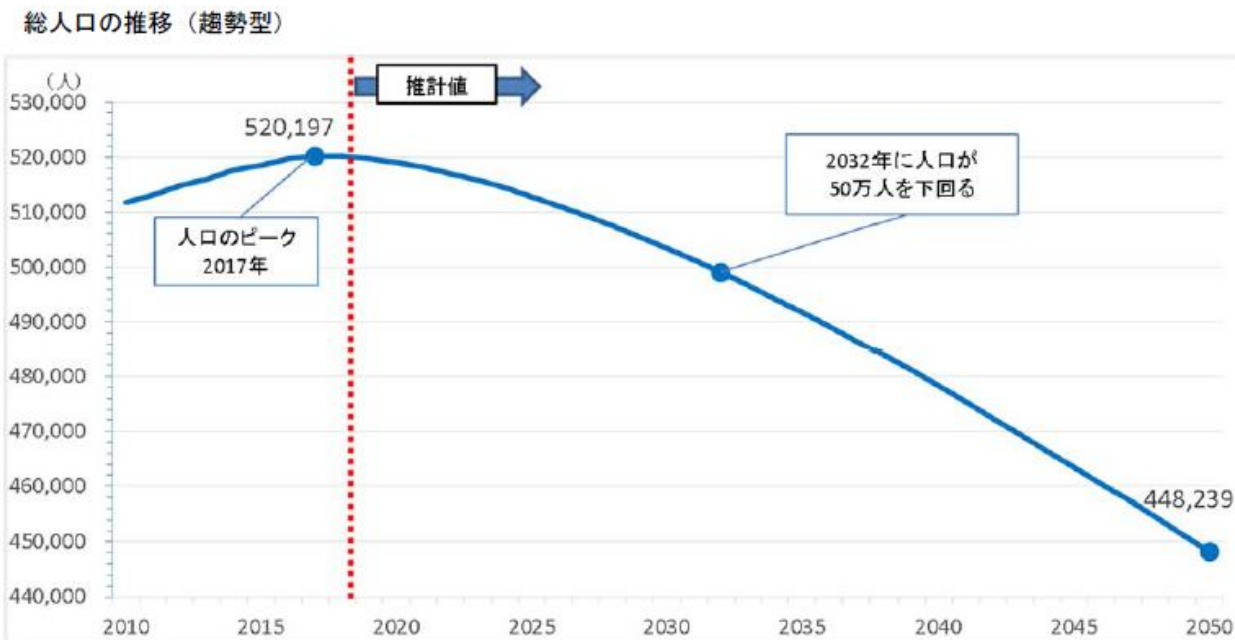


3. 宇都宮市のまちづくりの方向性

宇都宮市のまちづくりの方向性

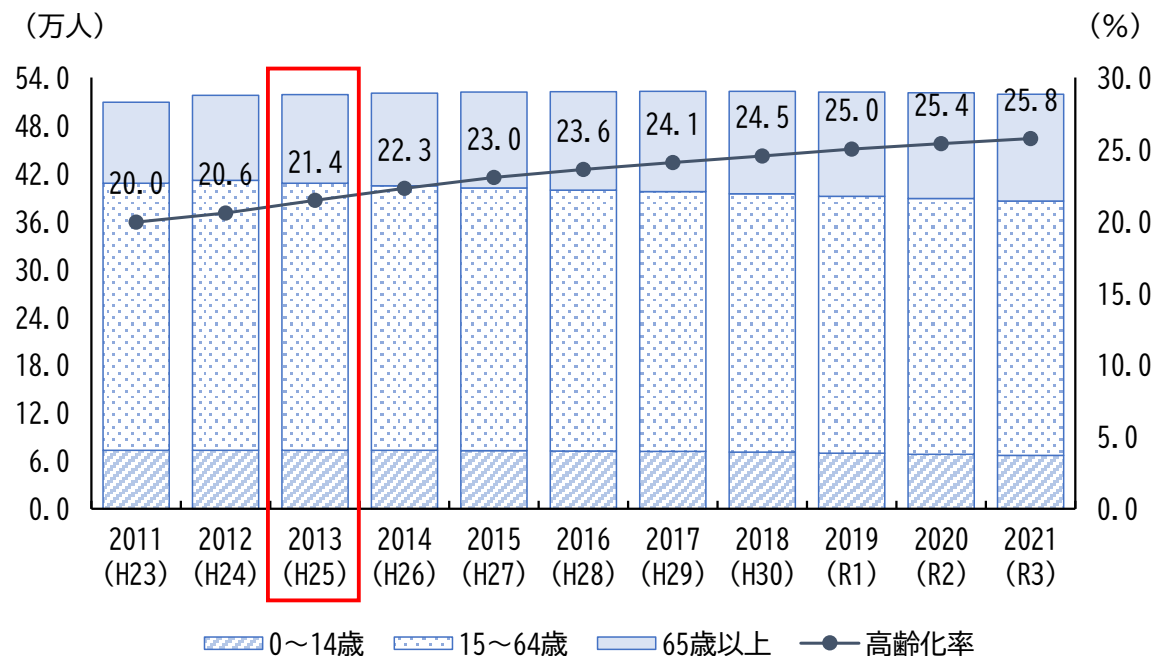
- 平成25年に超高齢化社会(高齢化率21%超), 人口は平成29年をピークに減少に転じている。

人口動向



出典: 宇都宮市人口ビジョン

年齢3区分人口推移

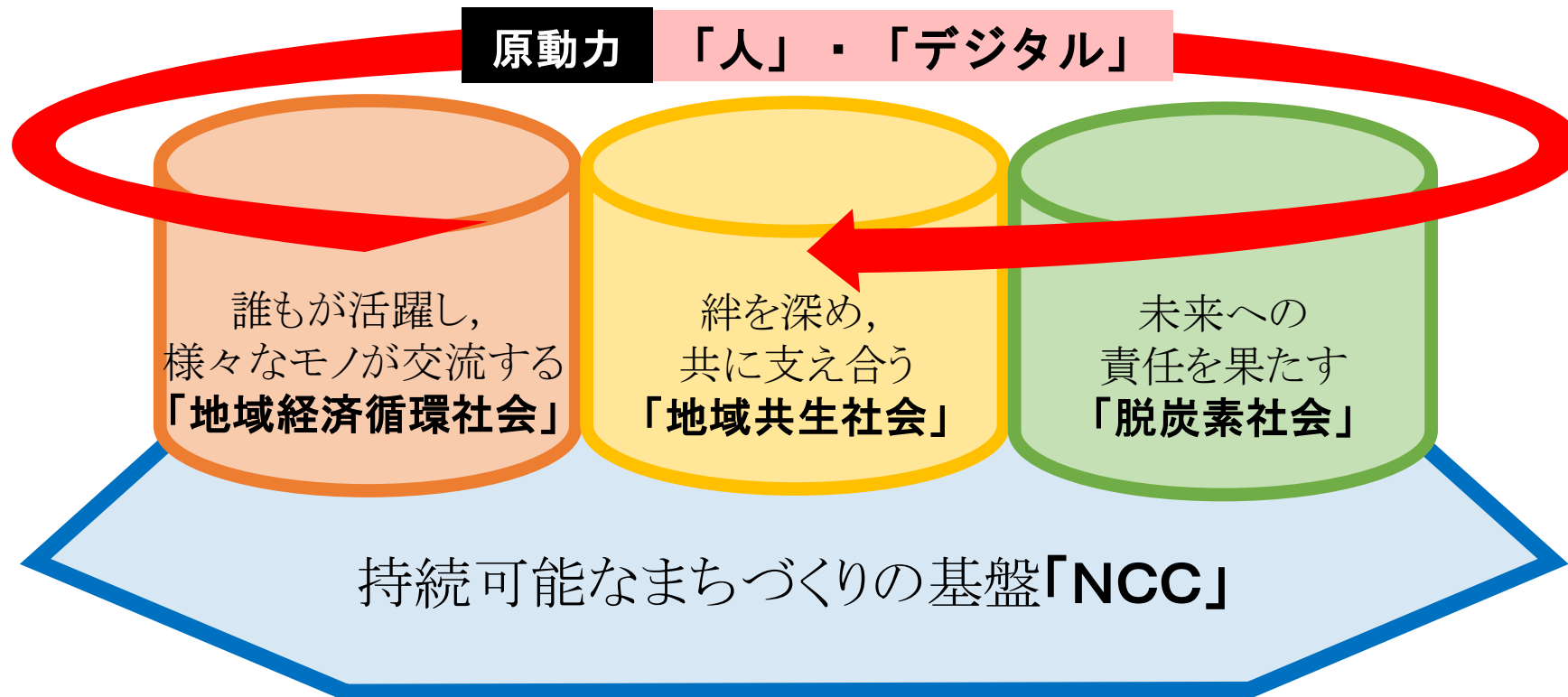


資料: 宇都宮市統計書より

宇都宮市のまちづくりの方向性

■スーパースマートシティ

- ・ 市内外から選ばれる高い都市力を備え、将来にわたって成長力を確保できるまちづくりに取り組んでいく必要性から、子どもから高齢者まで、誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ、夢や希望がかなうまち『スーパースマートシティ』を掲げている。








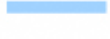
宇都宮市のまちづくりの方向性

■ネットワーク型コンパクトシティ（NCC）

- ・市内の各地域に拠点を定め、
各拠点を交通ネットワークで結ぶ
- ・市街地部と郊外部にある、
各拠点が持つ特性が
バランスよく調和したまち

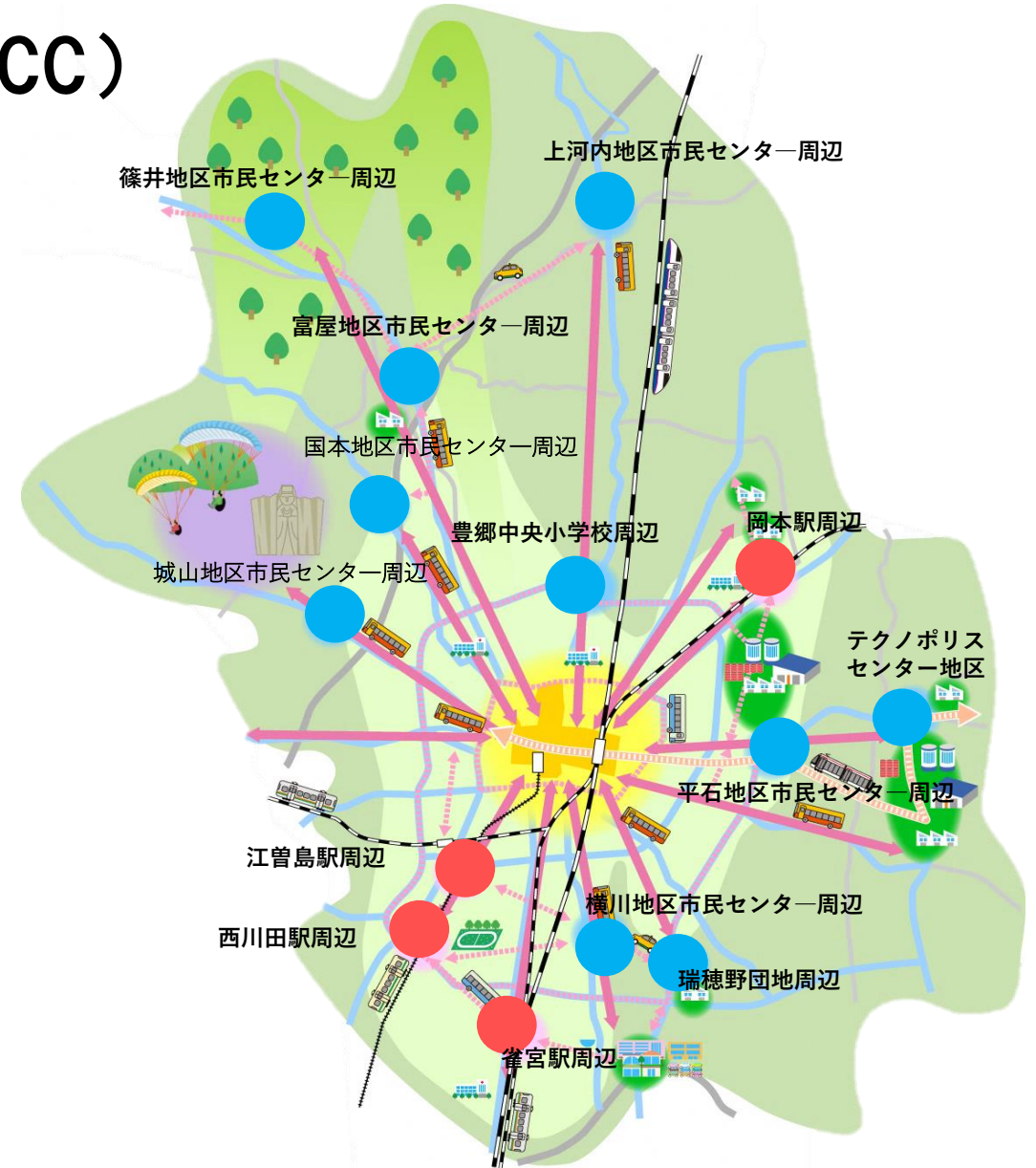
【凡例】

[交通ネットワーク]

-  基幹公共交通（鉄道）
-  基幹公共交通（LRT）
-  幹線公共交通（路線バス）
-  幹線公共交通・地域内交通
-  高規格道路（高速道路）
-  道路ネットワーク
（3環状12放射道路など）

[拠点]

-  都市拠点
（中心市街地320ha）
-  都市拠点圏域
-  地域拠点（市街地部）
-  地域拠点（郊外部）
-  産業拠点
-  観光拠点



宇都宮市のまちづくりの方向性

■都心部まちづくりビジョン

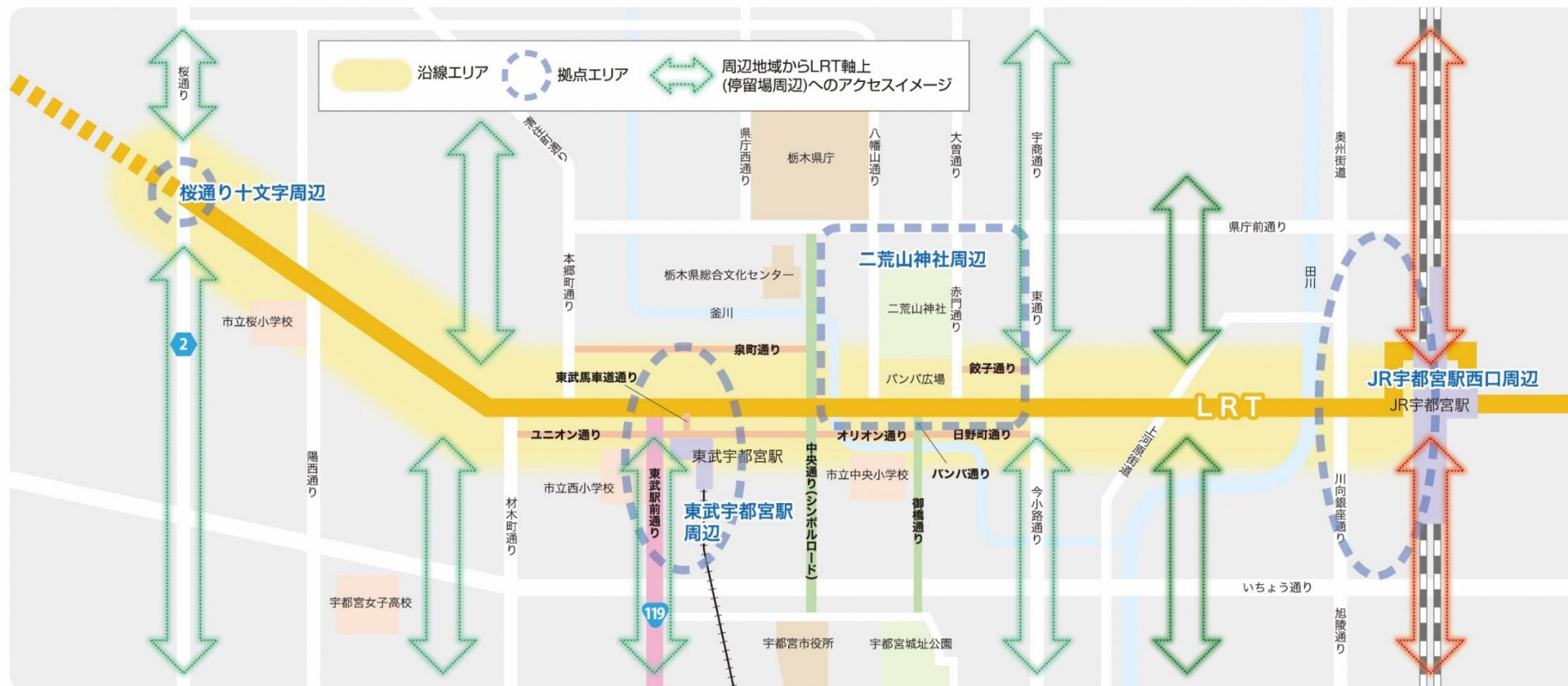
- NCCの形成をより一層推進するため、市民・事業者・行政等が、LRTを基軸とした公共交通と一体となった魅力ある都心部の目指すまちの将来像を共に描き、それに向かって協働で取り組むため、「都心部まちづくりビジョン」を令和4年2月に策定

全体方針：地域資源を活かしたストーリー性のある街づくり

取組イメージ：居心地がよく歩きたくなる空間形成

視点①ウォーカブルなまちづくり 視点②ICTなど先進技術の活用や脱炭素を推進 視点③多様な主体が連携したにぎわい

主な取組のイメージ



京橋川（広島市）
道路や水辺空間（田川や釜川など）を活用した新たなまちの魅力とにぎわいづくり（オープンカフェなど）



グランフロント大阪（大阪市）
沿線の街路樹や芝生広場など街なかの緑空間の創出や統一感のある調和のとれた街並み景観づくり

宇都宮市のまちづくりの方向性

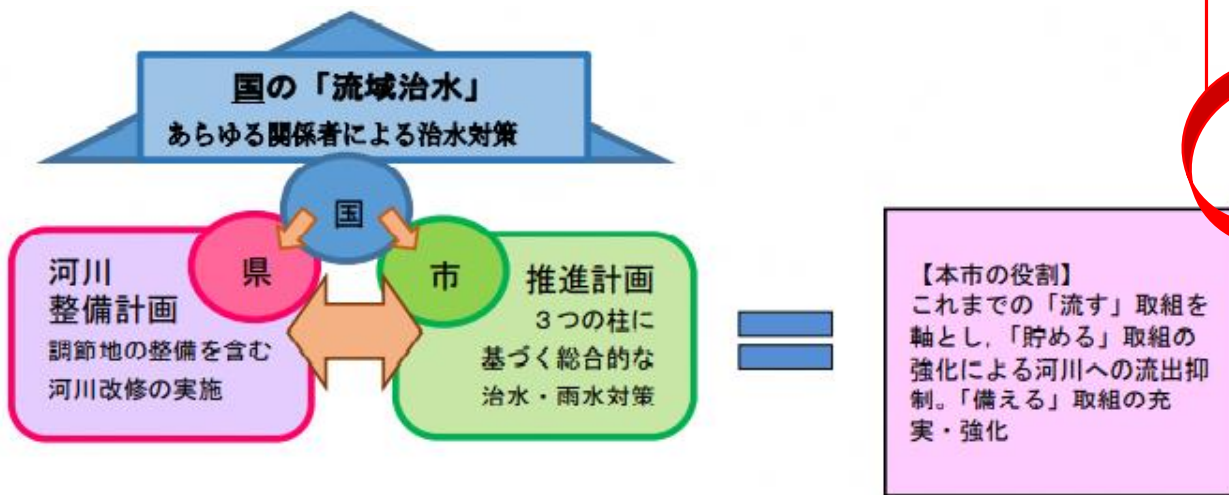
■総合的な治水・雨水対策の強化

- ・近年自然災害が頻発化・激甚化。
- ・令和3年に「宇都宮市総合治水・雨水対策推進計画」を策定し、「流す」、「貯める」、「備える」の3つを柱として、行政の役割と市民のできることとの協働によって、近年の局所的降雨や台風の被害に対応。

・「流す」取組：河川や下水道などの治水施設整備を行う「治水対策」

・「貯める」取組：官民協働による公共施設や民間施設における雨水流出抑制施設の設置促進を行うとともに、まちづくりと連携し、各流域の特性を踏まえ効果的に保水・浸透機能の保全回復に取り組む

・「備える」取組：ハザードマップ等の災害情報の提供や避難誘導體制等の充実強化を行う「防災・減災対策」



出典：宇都宮市総合治水・雨水対策推進計画（R3.5）

公園における貯留・浸透施設の整備



公園のグラウンドを活用した雨水貯留（オンサイト貯留）

農地や森林の保全・活用による雨水流出抑制



宇都宮市のまちづくりの方向性

■環境都市うつのみやに向けた取組

- 地域新電力会社による再生エネルギーの地産地消, LRT沿線における脱炭素化促進事業, 大谷石採取場跡地内の冷熱エネルギー活用等に取り組むほか, 2050年カーボンニュートラルの実現に向けて, 市民・事業者・行政が一丸となって取り組むための「宇都宮市カーボンニュートラルの実現に向けた基本方針(令和4年3月)」を定めた。

「ネットワーク型コンパクトシティ(NCC)」を基盤とし、「もったいない」のころのもと、「ひと」「もの」「まち」を大切にしながら、将来世代に残すことができる持続可能なまちをつくるため、かえる つくる 育てる の3つのアクションを実行し、カーボンニュートラルなまち“うつのみや”を実現しよう

カーボンニュートラル実現のための3つのアクション

- 大胆に! **かえる** 温室効果ガスが日常のあらゆる場面から排出されていることを意識して、脱炭素型のライフスタイル・ワークスタイルへ日々の行動を変えよう
- もっと! **つくる** 環境にやさしい再生可能エネルギーをつくり、そして使おう
- みんなで! **育てる** 脱炭素社会にふさわしいまちになるために本市の資源であるNCC、人材、緑、技術、パートナーシップなどをさらに育て、活用しよう



出典:カーボンニュートラルの実現に向けた基本方針 (R4.3)

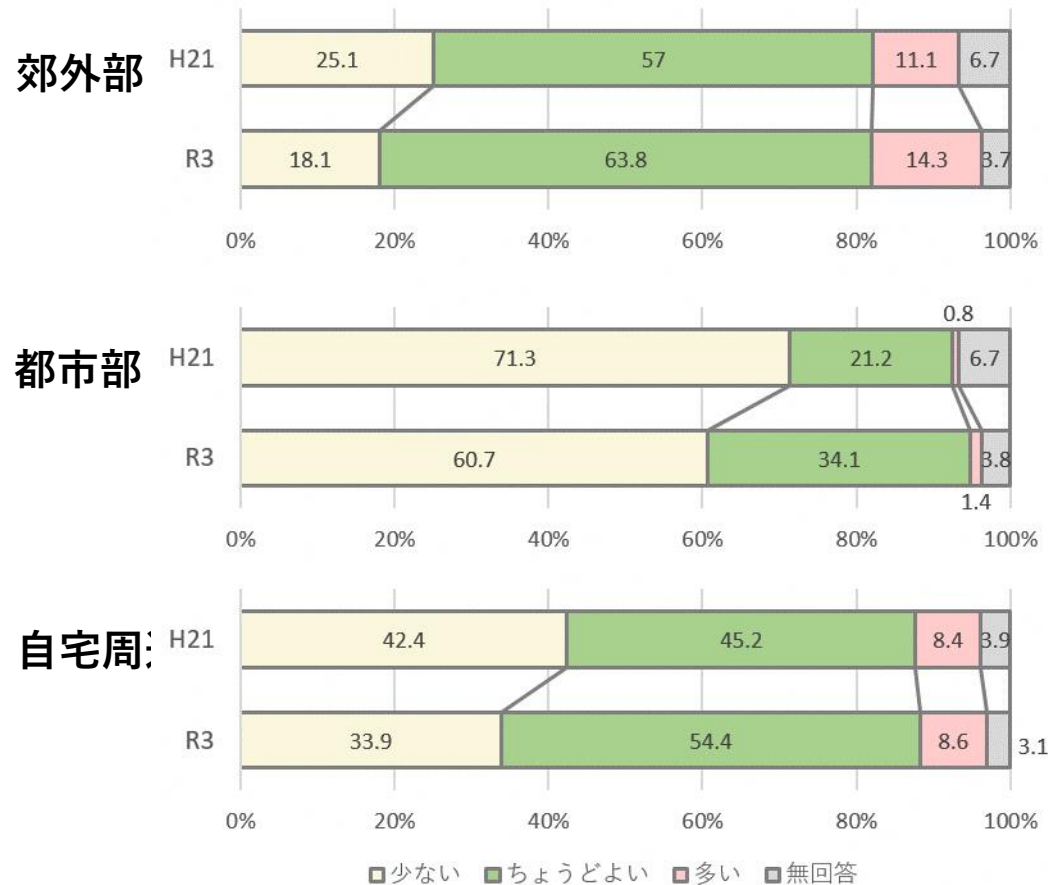
4. 市民意識（市民アンケート結果）

市民意識（市民アンケート結果）

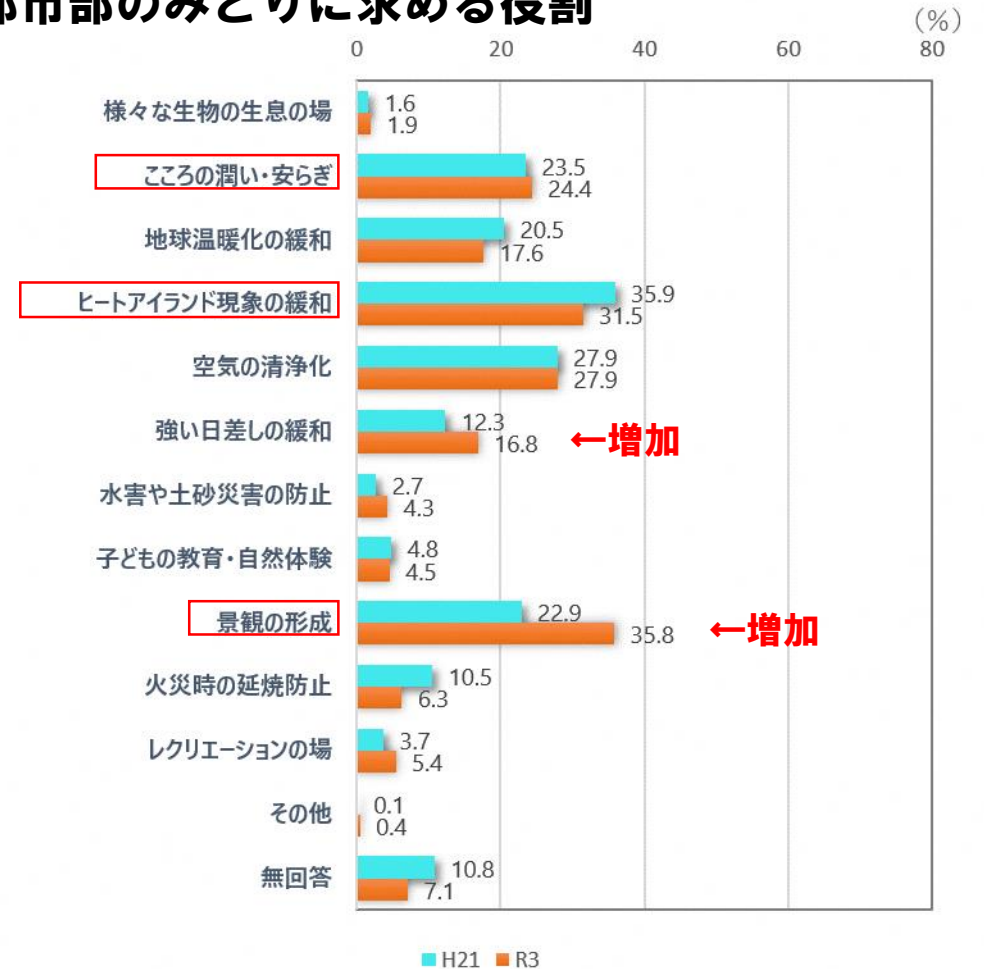
調査対象:20歳以上80歳未満の市民 3,844人 配布・回収:郵送
調査期間:R3/1/12~2/3 有効回答:1,408人(回答率36.6%)

- 現在の緑の量への満足度について、郊外部、都市部、自宅周辺いずれも「少ない」と感じる人が減少し、「ちょうどよい」が増加。
- 都市部のみどりに求める役割として、景観の形成、ヒートアイランド現象緩和、空気の清浄化、こころの潤い・安らぎが特に高い。平成21年と比べて、景観の形成、強い日差しの緩和が特に増加。

現在の緑の量への満足度



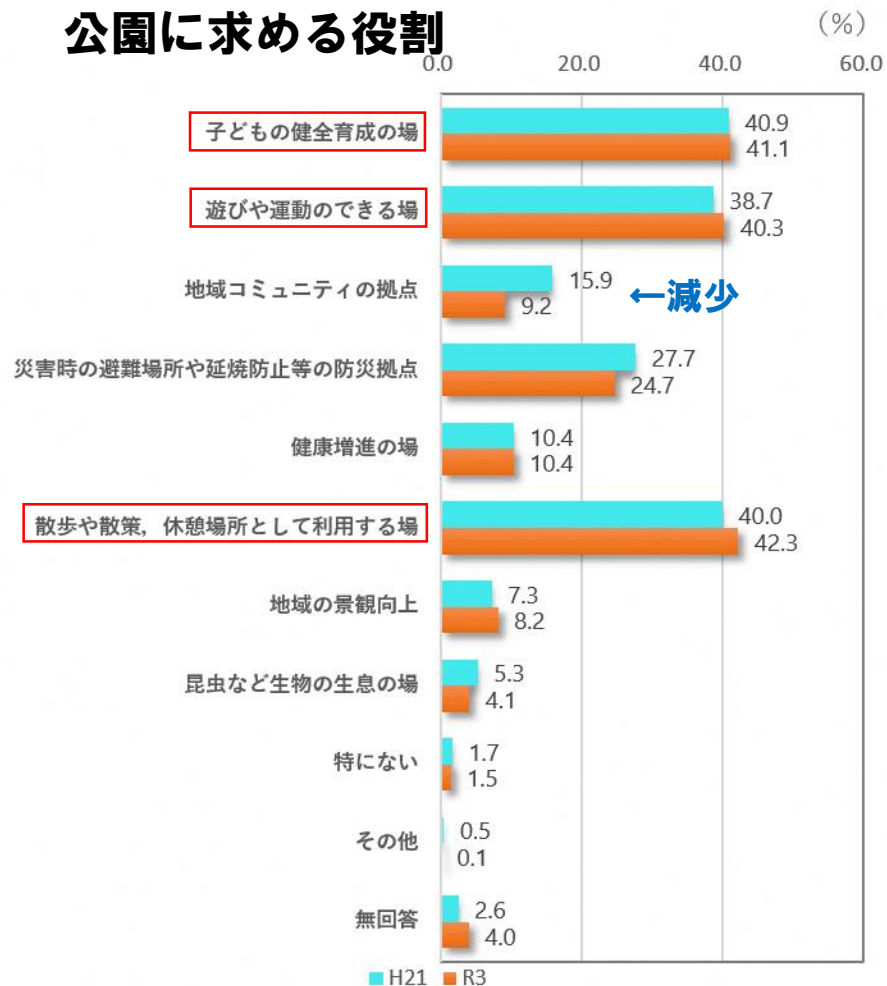
都市部のみどりに求める役割



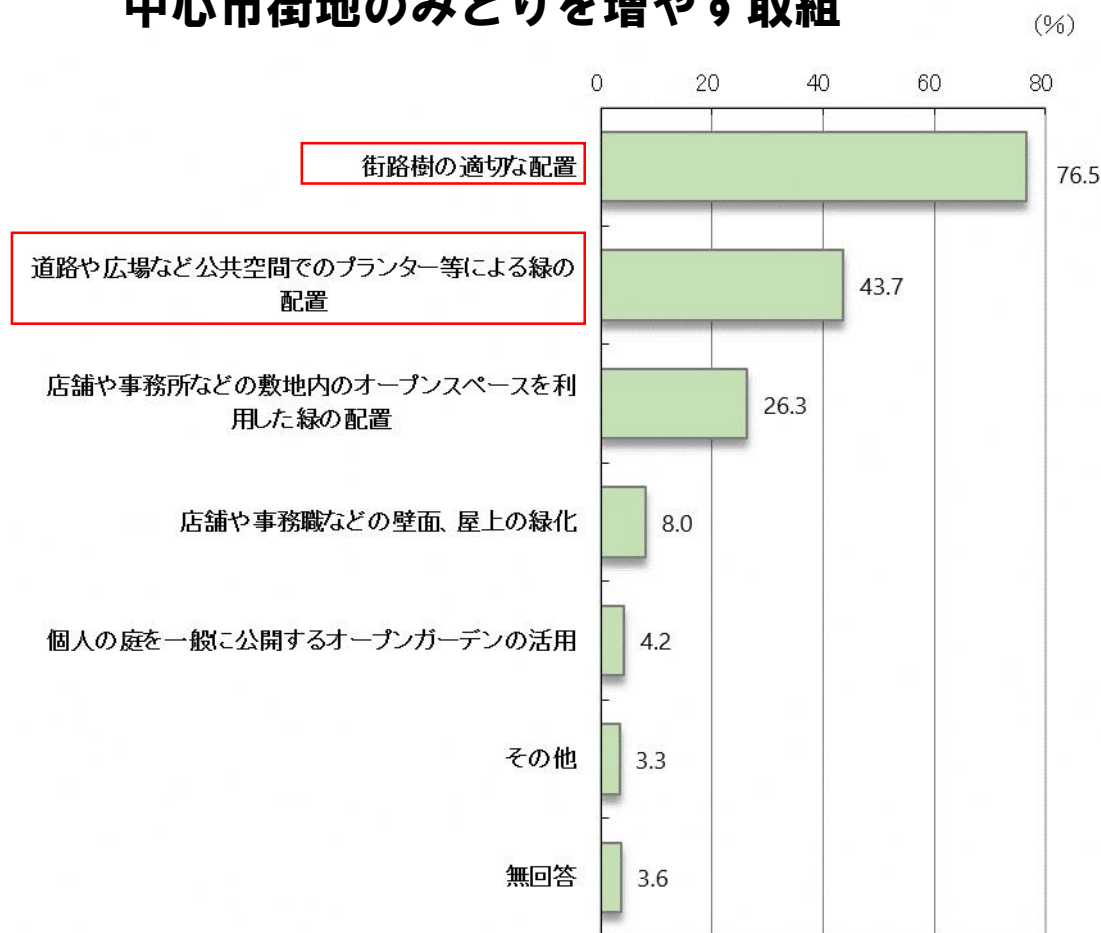
市民意識（市民アンケート結果）

- 公園に求める役割として、散歩や散策等の場、子どもの育成の場、遊び・運動の場の回答が多い。一方、地域コミュニティの拠点としての役割を求める回答が減少している。
- 中心市街地のみどりを増やす取組として、街路樹の配置が最も回答が多く、次いで公共空間での緑の配置。

公園に求める役割



中心市街地のみどりを増やす取組



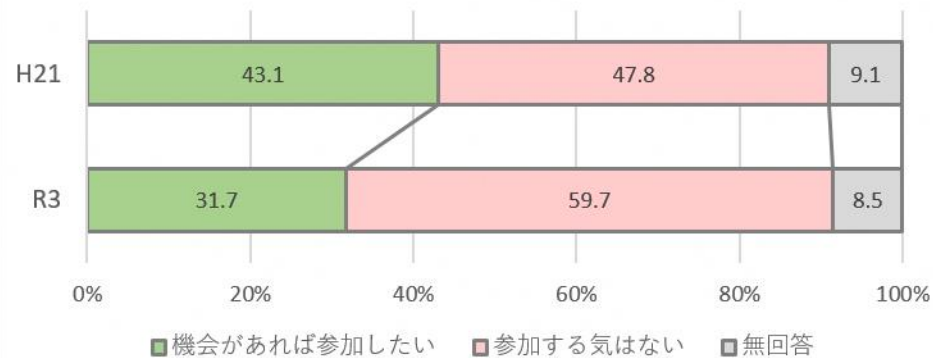
市民意識（市民アンケート結果）

- ・ 緑化ボランティア養成講座，緑化講習会への参考意向は，「参加する気はない」が平成21年から増加し，5割を超えているが，約3割は，機会があれば参加したい意向を持っている。
- ・ 一方，緑に関する募金については，機会があれば寄附したい人が，全世代で5割を超えている。

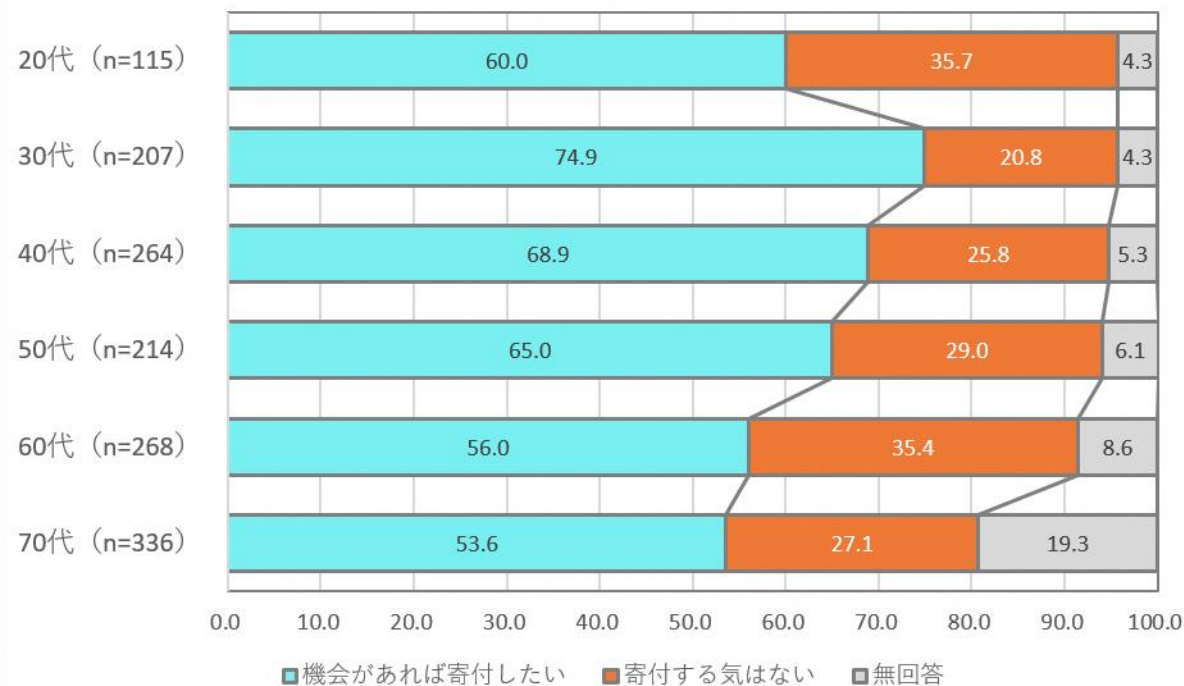
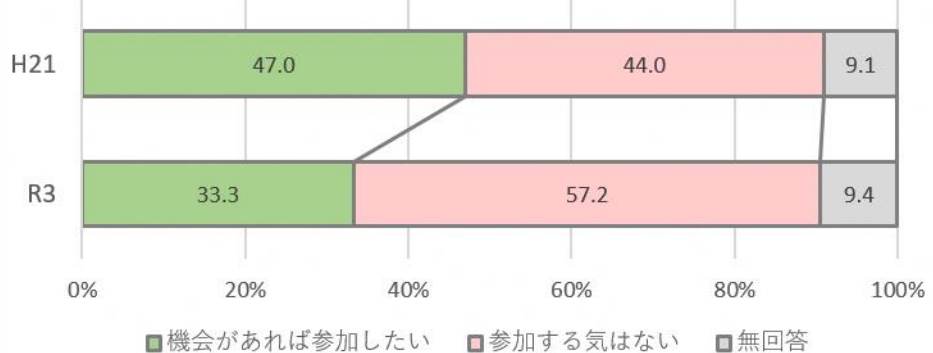
緑化ボランティア養成講座・緑化講習会への参加意向

緑に関する募金への意欲（年代別）

■緑化ボランティア養成講座



■緑化講習会



5. 現行計画の成果

現行計画の成果

■現行計画の目標水準の達成状況

| 指標 | | 初期値 | 目標値 (R4) | 現状値 |
|-----------------|-------|----------------|---------------------|----------------|
| 緑被率 | 市域全域 | 63.2 (H20) | 初期値を維持 | 67.0 (R1,2) |
| | 中心市街地 | 10.1 (H20) | 初期値以上 | 15.2 (R1,2) |
| 緑視率 | 中心市街地 | 14.1 (H22) | 20% | 14.3 (R3) |
| 緑地率 | 市域全域 | 54.6 (H20) | 初期値を維持 | 53.4 (R2) |
| | 市街化区域 | 11.2 (H20) | 17.6% | 10.7 (R2) |
| 市民一人当たりの都市公園面積 | | 10.44 (H21) | 13m ² /人 | 11.42 (R3) |
| 緑の量に満足している市民の割合 | 都市部 | 21.2 (H21) | 28% | 34.1 (R2) |
| | 郊外部 | 57.0 (H21) | 60% | 63.8 (R2) |
| | 自宅周辺 | 45.2 (H21) | 50% | 54.4 (R2) |

緑被率とは、航空写真のデータを用いて、樹林地や芝生等で覆われた区域「緑被」が、市域面積に占める割合



緑視率とは、ある定点において人が周囲を眺めたとき、目に映る緑の量が一定範囲内に占める割合のこと



緑地率とは、法律や条例等により、担保性が高い「緑地」が、市域面積に占める割合



現行計画の成果

■視点別の取組目標達成状況

視点1 「緑地保全」

| 指標 | 初期値 | 目標値(R4) | 現状値 |
|-------------------------------|-----------------|---------|----------------|
| 森林整備面積 (ha/年) | 166.45 (H20) | 150※1 | 116.3 (R3) |
| 緑の保全・育成に関する取組に満足している市民の割合 (%) | 34.6 (H20) | 41.2 | 36.5 (R3) |
| 緑による二酸化炭素吸収量 (t-CO2/年) ※2 | 30,424 (H20) | 30,695 | 27,323 (R3) |

※1) 「第5次宇都宮市総合計画」の改定に合わせ、修正した目標値。
 ※2) 「低炭素都市づくりガイドライン(素案)」<国土交通省>に基づき、森林整備面積、都市公園の樹木数(H≧3m)から算出。

視点2 「緑の拠点の整備」

| 指標 | 初期値 | 目標値(R4) | 現状値 |
|---|---------------|---------|--------------|
| 市街化区域の身近な公園(街区・近隣公園)誘致圏カバー率 (%) (=誘致圏面積/市街化区域面積) | 38.9 (H20) | 40.0 | 38.6 (R2) |
| 公園のバリアフリー整備数(箇所) | 94 (H20) | 186※3 | 153 (R3) |
| 公園再整備箇所数(箇所) | 0 (H20) | 数値の向上 | 4 (R3) |
| 緑の憩いの拠点づくりの推進に関する取組に満足している市民の割合 (%) | 14.5 (H20) | 23.1 | 46.8 (R3) |

※3) 「宇都宮市やさしさをはぐくむ福祉のまちづくり推進計画」の改定に合わせ、修正した目標値。

視点3 「都市緑化の推進」

| 指標 | 初期値 | 目標値(R4) | 現状値 |
|-------------------------------|---------------|---------|--------------|
| 緑地協定区域数(箇所) | 21 (H20) | 33 | 24 (R3) |
| 緑の保全・育成に関する取組に満足している市民の割合 (%) | 34.6 (H20) | 41.2 | 36.5 (R3) |

視点4 「緑のネットワーク形成」

| 指標 | 初期値 | 目標値(R4) | 現状値 |
|---------------------|---------------|---------|--------------|
| 多自然川づくりによる河川整備率 (%) | 57.6 (H20) | 62.8※4 | 63.8 (R3) |
| 樹木の里親街路樹数(本) | 562 (H21) | 数値の向上 | 533 (R3) |

※4) 「第5次宇都宮市総合計画」の改定に合わせ、修正した目標値。
 また、多自然川づくりによる河川整備を含めた、河川全体の整備率を指標としている。

視点5 「緑の普及・啓発」

| 指標 | 初期値 | 目標値(R4) | 現状値 |
|------------------------------|----------------|---------|---------------|
| グリーントラストうつのみや緑地保全活動参加人数(人/年) | 2,125 (H20) | 3,500 | 2,500 (R3) |
| 市民と協働でつくる公園数(箇所) | 27 (H20) | 数値の向上 | 47 (R3) |